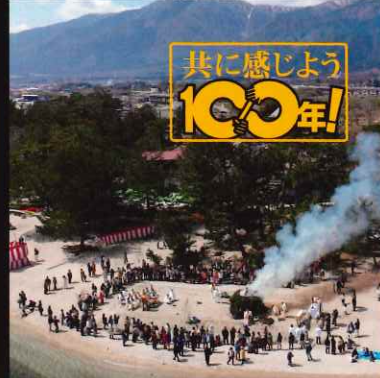


湖国古典行事



山と湖をつなぐ水への祈り

共に感じよう  
100年!



3月26日

10時開始～12時40分終了 予定 [雨天決行]

【主催】比叡山延暦寺 比良修験道

【協賛】八雲観音奉賛会 近江舞子観光協会

比良八講近江舞子の会 南小松入会地管理会

比良八講北比良の会 比良里山クラブ

北比良自治会 南小松自治会 北小松自治会

大津地域女性団体連合会志賀ブロック

北比良グループ 志賀観光協会

お問い合わせ:

志賀観光協会 TEL: 077-592-0378

近江に春の訪れを告げる  
比良の例祭

その昔、霊峰と崇められた比良山(蓬萊山、武奈ヶ岳、打見山など高峰の総称)。春先となればこの高い山々と琵琶湖の気温差から、山麓一帯に強い北西の季節風が吹き、琵琶湖は大時化(しけ)となる。この自然現象をいつしか「比良の八荒、荒れ仕舞い」と呼び、人々は長い冬の終わりと、待ちわびた春の訪れを感じて来たという。

近江の伝説『比良八荒』もまた、この気象を背景に作られ語り継がれている。地の民、水の民が自然への畏敬の念を新たにする春の風物詩。今年もまたその時季を迎えようとしている。



昭和三十年、比良八講が比叡山千日回峰行者である故箱崎文応大阿闍梨により再興され、半世紀余りの年月が流れました。その間、主催会場は大津市八屋戸から浜大津、雄琴、唐崎、堅田へと遷され、現在の近江舞子に落ち着きました。

時空を超えて受け継がれる水への祈り。滋賀・京阪神地域の水瓶を司る琵琶湖への報恩と、その水源である比良山系の保全、水難者回向と湖上安全祈願を捧げる法要。地元の方をはじめ、近畿一帯の皆様にも広くこの行事を知っていただき、ご参集いただければ幸いです。

# 比良八講 荒れじまい

地域をあげて、百年続く行事をめざします

## 観音石像前スタート 雄松崎一帯で開催

### 近江舞子沼（内湖）

びわ湖

赤橋  
① 観音石像  
お練り  
駐車場ゲート  
WC P  
駐車場は無料でご利用いただけます。

山伏問答

お加持

護摩道場 ③

WC

テント販売

受付

雄松館東屋

雄松崎

地元野村太鼓  
お出迎演奏

船出の儀

受付では護摩木、紙塔婆、御朱印の取り扱いを行っています。

特設テントでは地元の加工食品や温かい飲み物、軽食等を販売します。

※数に限りがございますのでご了承ください。

### 開催スケジュール

10:00

#### 近江舞子観音石像前にて比良八講法要①

お練り

山伏や僧侶、稚児娘からなる荘厳な行列絵巻。ホラ貝の音高く、白砂青松の地を雄松崎をめざし練り歩きます。

#### 雄松館東屋へ移動②

#### 水難者回向法要、湖上安全・湖水清浄祈願、水源感謝法要

船出の儀

湖上に紙塔婆を流して水難者の霊を慰め、お寄せいただいた諸精霊の供養を行います。また、法水を湖上に注ぎ浄化祈願を行います。

\*東屋正面の砂浜（指定範囲厳守）よりご覧頂けます。法要中はお静粛にお願い致します。

#### 護摩道場へ移動③

#### 採燈大護摩供

山伏問答

受付にて行者問答の解説書を配布しています。（部数限定）修験者の衣装解説付きです。

お加持

参集者全員、藤波阿闍梨より数珠加持が受けられます。

12:40

※天候やその他の事情により、時間変更される場合があります。

### 会場アクセス



【電車】 JR 近江舞子駅から徒歩 5 分

【車】 国道 161 号湖西道路近江舞子ランプから 5 分  
近江舞子駐車場（当日無料）すぐ

★ 白いノボリを目印にお越しください。★

## 悲恋の伝説「比良八荒」

昔、若い修行僧が托鉢に出かけた際、東江州のある旅籠に滞在しました。そこには見目麗しい娘がおり、僧を一目見て好きになりました。娘は意を決して、自らの思いのたけを打ち明けた。僧は、僧は修行の身ゆえ帰らねばなりませんが、娘の気持ちに伝える訳にもいかず、「私は湖水の彼方、比良の麓で修行をしています。私が恋しいとお思いなら、百夜通って来て下さい。そうすれば、貴女の願いが叶うでしょう。」と言いつつ残して行きました。

喜んだ娘はその日から九十九夜、たらい舟に乗り、灯りを頼りに対岸を目指して通いました。いよいよ満願の百日目の夜。いつものように沖に出たものの灯火はなく、娘は目印を失い悲しみに暮れました。折しも比良嵐（おろし）が湖上を吹き荒れ、たらい船は哀れ湖に沈んでしまったということでした。この時季に比良山から吹きおろす強風は、娘の無念によるものとも言われます。

※このお話は、大津や草津、守山にも伝わり、娘の名は「おはな」「おみつ」「おいさ」など複数説がある。また、琵琶湖に生息する魚のイサダ（イサザ）は娘の化身と伝わる地域もある。  
※比良八講に、雪洞（ほんぼり）を持った稚児娘が参列するのには、灯明を見失い遭難した娘の念を慰める願いが込められている。  
※太陰暦二月二十四日は菅原道真の命日で、その法楽として白鬚神社比良明神で比叡山の衆徒が法華経八巻を四日間て誦誦して供養したのが、比良八講の起りとされる。